

1 白川郷学園の教育目標、教育課程

1 白川郷学園の使命

今、令和の時代にあって、村民が学校教育にこんなに近い学校はあるだろうか。登校時刻になれば通学路に立ってくださる大人の存在、居間から顔を出して「行ってらっしゃい」と子どもに声をかけてくださるおじいちゃん、おばあちゃんの存在、自宅の畑で野菜が採れば、「給食に」と提供くださる農家の方の存在、村の広報無線で挨拶啓発を呼び掛けてくださる行政の方の存在。村民の子どもや学校教育に対する熱量は高く、子どもたちは村民皆に愛され、学校は村民皆に支えられて成り立っている。



本校は、霊峰白山のふもと、美しく厳しい自然と薫り高い文化に恵まれた白川村唯一の学校である。「荻町」、「平瀬温泉」に代表される、自然や歴史、伝統、文化、観光、そして国際交流等、豊かな教育資源に恵まれた学校である。東海北陸自動車道が全線開通し、人の往来はスムーズになったものの、義務教育を終える15歳までに「ひとりだち」の礎を育てることは、今も変わらず学校教育の必須課題となっている。

本校では、平成25年度から立ち上げたコミュニティスクール、平成29年度開校した義務教育学校としての仕組みを生かし、この「ひとりだち」の要素となる「挑戦」、「創造」、「貢献」の3つの資質・能力を9年間かけて育成する教育を展開している。

義務教育学校の最も大きな特色は、切れ目のない9年間の教育課程を一貫して編成、実施できることにある。このことは、教師側からすれば9年間の成長の階段をゆるやかに、しかし確実に実感を伴って子ども自身に登りきらせることができることを意味する。同時に、児童生徒からすれば、「自らの9年先を見通し、9年前を振り返ることができる日常」がそこにあることを意味する。

白川村民皆が言える学園の教育目標「ひとりだち」。本校では、15歳の「ひとりだち」に責任をもつ教育を展開している。

2 白川郷学園の教育目標

(1)「ひとりだち」

開校以来、前期校舎ホール（ひとりだちホール）の大黒柱には茂住青邨氏が書かれた「ひとりだち」の書が掲げられている【図表1】。力強く、それでいてしなやかでやわらかく、豊かな表情を放っている。

茂住氏は、この文字にどんなメッセージを込めるか悩まれたと聞いている。「ひとりだち」という言葉が、この学園の子どもたちにとってどのような意味合いをもつかを考えられたからである。茂住氏は、「ひとり」を一つの言葉として一気に書き、そのあとの「たつ」という言葉の



【図表1】
茂住青邨氏の書

「だ」と「ち」を「ひとり」とは全く違う筆運びで書かれたそうである。また、こうも語られた。「通常の『だ』の濁点を打つ場所が違うでしょう。それは、子どもたちに、大きく旅立っていけという思いで書いたのです。それから、『ち』は大地に根を張る力強さを書きました。墨がこぼれていますが、それは、地面がきれいでなくてもいい。ということなのです・・・。」

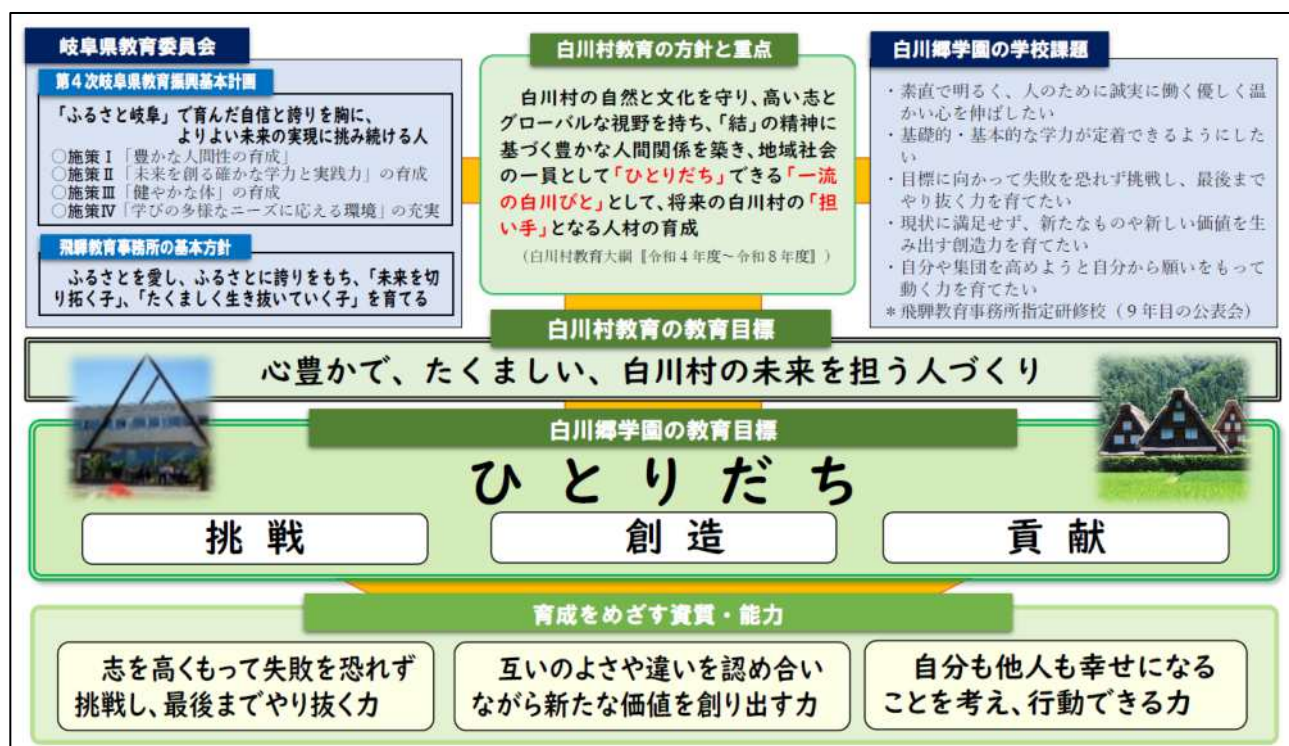
茂住氏のこの文字を、子どもたちは毎朝登校時に目にしている。学園が続く限り、おそらくこの朝の景色は変わらないだろう。であるなら、この学校の教育目標を示すこの力強い文字を経営に生かさない手はない。

（２）「挑戦」、「創造」、「貢献」

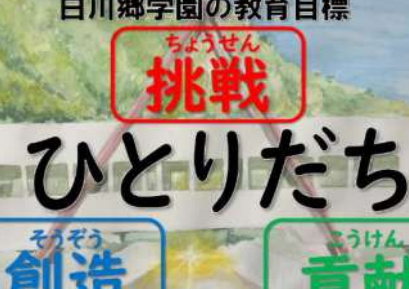
今、まさにVUCAの時代とも言われ、明日のことさえ予測することが困難な先行き不透明な世の中がやってきている。今後、この状況はますます加速していくだろう。このような中、未来社会を切り拓き、生き抜いていかなければならない子どもたちにとって必要な資質・能力は何なのだろうか。

学習指導要領は、10年程度のサイクルで改訂される。いわば、賞味期限10年の学習指導要領である。しかし、現行の学習指導要領で学んだ児童生徒が活躍する20年後に、学んだ内容の賞味期限はまだ残っているだろうか。世の中の企業等は、次世代を生き抜く方策を考えながら歩んでいる。とするなら、我々教職員は、次世代に生き抜く力を見据えた学校教育を求めるべきである。10年賞味期限と言われる学校教育のその先を見据えて日々実践を積み重ねなければならない。

世の中や社会の動向を踏まえ、本校の児童生徒にある実態、保護者の願い、そして村民の願いを受け、開校9年目の本年度、学校の教育目標「ひとりだち」直下にある「自立」、「共生」、「貢献」を見直し、「挑戦」、「創造」、「貢献」と更新した。15歳の「ひとりだち」に責任をもった教育を展開することには変わりはない【図表2及び別紙1】。



【図表2】令和7年度 学園経営全体構想（一部）

- 
- 白川郷学園の教育目標
- ちようせん
挑戦
- ひとりだち**
- そうぞう
創造
- こうけん
貢献

なお、学園の教育目標は始業式をはじめ全校集会で子どもたちにことあるごとに伝え続けるとともに、校舎各所に教職員有志がデザインした掲示物を掲示している【図表3】。その上で、教員から児童生徒を価値付けたり、児童生徒同士のよさ見つけの切り口として活用したりして、浸透を図っている。

誰もが9年先の自分を描き
9年前を振り返ることができる学校

[illegible]

-65-

(2)「4－2－3システム」の導入

開校当初、本校では「4－3－2システム」を9年間一貫教育のシステムとして教育課程を組んで実践していた。その際、前期課程における6年生の存在感と、7年生の立ち位置についての反省と、6年生と7年生をつなげば不登校をはじめとする問題行動は解決できるわけではないという反省があった。国内の義務教育学校や小中一貫校では、「4－3－2システム」、「5－4システム」等、様々な仕組みによる教育が展開されているが、これまでの日本の教育制度を凌駕するには至っていない。仕組みではなく、子どもの発達を子ども側からとらえた教育を展開しなければ、子どもは育たないからである。

したがって、小学校ならば最高学年となるはずの「6年生の存在感」と、中1ギャップに代表される「6年生から7年生への接続」を勘案し、開校2年目の平成30年度に「4－2－3システム」へと変更し、前期課程である1年生から4年生までを「低ブロック」、同じく前期課程である5年生と6年生を「中ブロック」、後期課程である7年生から9年生までを「高ブロック」とした。ただし、本校ではこの「4－2－3システム」は固定的には考えずに、「6－3システム」とも、「4－5システム」ともできる柔軟な仕組みとして運用してきており、いわば「フレキシブルな4－2－3システム」としている。

(3) 各ブロック、各学年の主な活動、行事

①施設一体型の義務教育学校

白川郷学園では、先述のとおり1年生から6年生までを前期課程、7年生から9年生までを後期課程としている。渡り廊下（ふれあいブリッジ）を隔てて、前期校舎、後期校舎はあるものの、全校児童生徒が同じ校舎の2階フロアで活動を行っている。玄関は9学年同一、特別教室で行う授業は前期校舎、後期校舎を行き来している。



【図表6】前期校舎と後期校舎をつなぐふれあいブリッジ

②各ブロックでの活動

課程	前期課程 (小学校学習指導要領を準用)						後期課程 (中学校学習指導要領を準用)		
ブロック	低ブロック				中ブロック		高ブロック		
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
主な行事	入学式					修学旅行	制服着用 部活動入部 宿泊研修	宿泊研修	修学旅行 卒業式
教科授業	配置可能な教科で教科担任制				教科担任制をゆるやかに拡大		完全教科担任制、教科センター方式		
英語授業	年間17.5h				年間70h		年間140h		
ふるさと学習	豊かな自然	自然をつなぐ	自然と共に生きる	合掌造り	伝統行事・芸能	白川村魅力発信			
ひとりだち学習	困り感から生まれた商品	困り感解決のために	困り感解決の商品開発	お土産の商品開発	学園定食の商品開発	会社経営の体験	困り感解決のための商品開発ビジネスコンテスト		
ブロックごと	☐ 低ブロック集会 ☐ 保育園交流 ☐ 高齢者とのふれあい活動				☐ 中ブロック集会 ☐ 部活動体験		☐ 高ブロック集会 ☐ 9年生ありがとうの会 ☐ 進路説明会、進路選択、進路実現		
全校	結クラス…1～9年生縦割り6つの班での活動（結クラスweek、結クラス遊び、結クラス遠足、結クラス給食、結クラス献立、結トーク等） ☐ 学園集会（児童生徒会主催）…1～9年生が一同に会して児童生徒会の取組を考える ☐ 学園リーダープロジェクト（LP活動）…各学年が役割を担って全校のために活動を行う ☐ 学園行事（1年生を迎える会、部活動壮行会、体育大会、9年生ありがとうの会）								

【図表7】9年間の枠組みと主な活動、行事

本校では、全校や前期・後期課程のまともに加えてブロックでの活動も仕組んでいる【図表7】。例えば、学校行事に向けたガイダンスや願いの共有、各ブロックの最高学

年の児童生徒が主体となった学校や学級生活等における話し合い活動、お楽しみ会の開催などを位置付けている。とりわけ6年生に、このように時には責任をある立場に立たせ、時には甘えもさせながら、しなやかに確かに育てる柔軟性のある教育の仕組みとしている。

なお、部活動は、6年生後半での部活動見学・体験を経て7年生から入部、制服は7年生から着用としている。また、児童生徒会選挙については5年生から選挙権、被選挙権をもち、主体的に学園の生活づくりに参画できるようにしている。

③主な行事

本校では、主な儀式的行事として1年生時に入学式【図表8】を、9年生修了時に卒業証書授与式【図表9】を行っている。卒業証書授与式では、校長から証書授与の後、一人ひとりがステージ上から未来への決意をノーマイクで述べる場を設定している。なお、現在では、6年生の終わりや7年生の始めには、入学式や進級式といった儀式的な行事としては行っていないが、前期課程修了時の6年生3月の修了式の中で「前期課程修了証書」を校長から一人ひとりに授与し、9年生同様に、ステージ上から後期課程や将来への決意を述べる場を設けている。

開校当初行っていた「1／2成人式（4年生）」や「立志の集い（8年生）」は、それらの準備、取組期間も含めて、授業時数の確保の観点から現在では取りやめ、新たに該当学年の特別活動の中で節目の意義について考え、自己を見つめる場を設定している。

旅行・集団宿泊的行事は、6年生で修学旅行（京都、奈良、大阪等の関西方面）を1泊2日【図表10】で、8年生で宿泊研修（高山方面で大規模中学校との交流）を1泊2日で、9年生で研修旅行を2泊3日で実施している。9年生では、生徒が自分たちで方面、行程を企画し、旅行会社に来校いただき、助言を受けた上で決定している【図表11】。本年度は関東方面と自分たちで決定し、10月末に実施した。なお、コロナ禍前まで実施してきた、オーストラリア海外研修は、現在は実施していない。

健康安全・体育的行事として、毎年9月第1週の土曜日に9学年合同で体育大会を実施している。学年の発達等に応じた種目こそあるものの、全校種目や1年生から9年生までバトンをつなぐ選抜リレー、赤白2団がそれぞれ一体となった応援合戦などに取り組む【図表12】。

文化的行事として、12月の土曜日の村民文化祭に参加し、村民の前で合唱をはじめとする文化的な活動の発



【図表8】入学式



【図表9】卒業証書授与式



【図表10】6年生修学旅行
(R7は奈良、大阪万博)



【図表11】9年生研修旅行の行程を
旅行業者に相談する生徒

表を行っている。

年々熱中症の危険性が高まる昨今、体育大会の9月開催が危ぶまれている。次年度に向け、年間の「旅行・集団宿泊的行事」、「健康安全・体育的行事」、「文化的行事」の在り方、意味付け、つながりを検討した上で、体育大会を含めた行事の実施時期を検討している。また、5年生の宿泊研修の実施（復活）（石川県の海での体験）も検討している。



【図表 1 2】体育大会
(前期課程、後期課程ミックス応援)

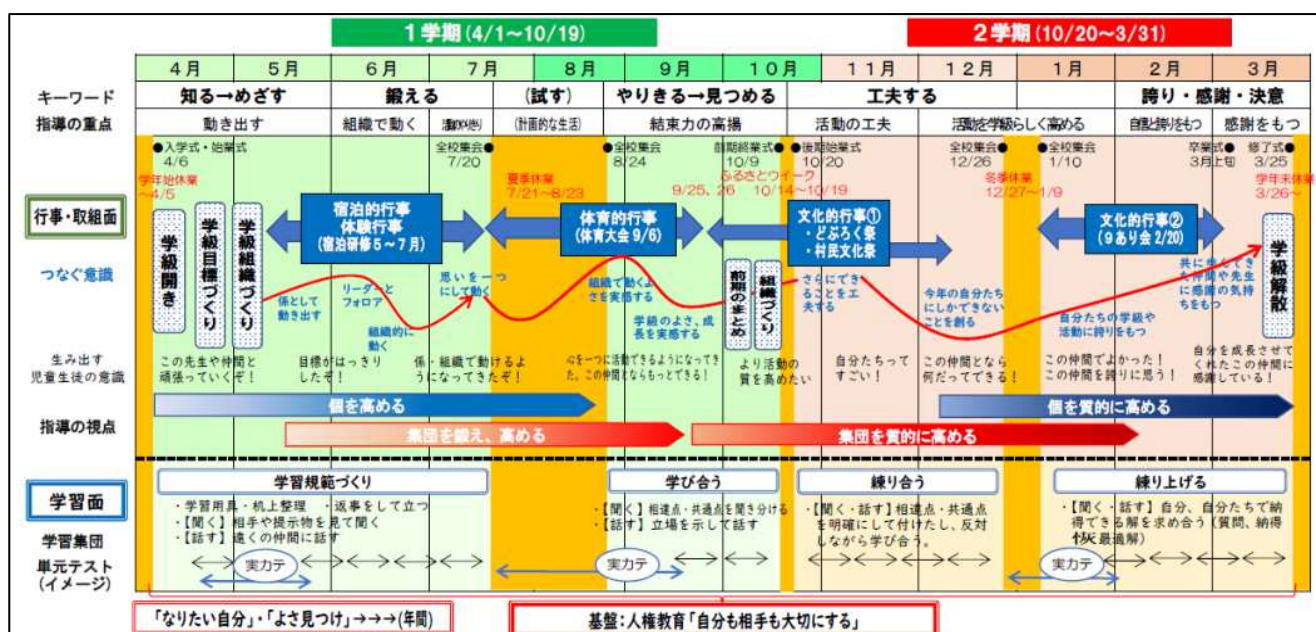
(4) 週時程（1日のダイヤ）

本校では、前期課程、後期課程間で教科担任の移動が可能になることから、校内の日程（ダイヤ）を統一している【図表 1 3】。前期課程では45分授業、後期課程では50分授業を基本としており、前期課程の余剰5分間は、復習したり仲間や教員に質問したりする時間として柔軟に活用している。これにより、児童生徒は安心感をもち、落ち着いた環境の中で学習することが可能となっている。

令和7年度 白川郷学園 日課表		
	月・水・金	火・木
朝の会	8:00～8:10	8:00～8:10
1時間目	8:15～9:05	8:15～9:05
2時間目	9:15～10:05	9:15～10:05
青空タイム	10:05～10:20	10:05～10:20
3時間目	10:25～11:15	10:25～11:15
4時間目	11:25～12:15	11:25～12:15
給食	12:15～13:00	12:15～13:00
昼休み	13:00～13:20	13:00～13:20
掃除	13:25～13:40	
5時間目	13:50～14:40	13:25～14:15
6時間目	15:50～15:40	14:25～15:15
帰りの会	15:45～15:55	15:20～15:30
下校・放課部活	16:00	15:35

【図表 1 3】学園で統一した週時程

3 教育課程の編成



【図表 1 4】二学期制の捉えと主な活動をつなぐ児童生徒の意識

本校では、本年度から二学期制を導入している。年間を2つの学期に区切ることで、1学期（多くの学校では「前期、後期」としているが、本校では「前期課程、後期課程」と混同するため「1学期、2学期」という言い回しにしている。）は、5月から6月に実施する宿泊的行事や体験活動等で学級、ブロック、全校の組織的な動きを鍛え、9月の体育的行事でそのよさを発揮できるようにしている。2学期には学級、ブロック、全校の財産を生かして工夫し、文化的行事の中でその財産を発揮できるようにしている。学期の区切りを長くすることで、行事や活動への意識を連続させて取り組むことができるようにしている。

学園の教育目標の具現を見据え、ここまで述べた理念に基づいて、「学校教育全体計画」を作成し、全教職員で共有している。各学年、各ブロック、各指導部がどのような意図でどのような教育活動を行っていくのか、1枚に整理したものである【図表15及び別紙3】。

【図表 15】令和7年度学校教育全体計画

年間を5つに分けた期ごとに行われる企画委員会、職員会議では、教頭や教務主任の指導の下、この計画に基づいた提案が行われるようにしている。加えて、期の終わりに教務主任が教職員向けのアンケートを実施して見直し、改善を図り、次の期へ成果と課題をつなげられるようにしている。

この計画により、各ブロックや各指導部の提案、活動が有機的につながり、常に学園の教育目標に立ち返ることができるようになっている。

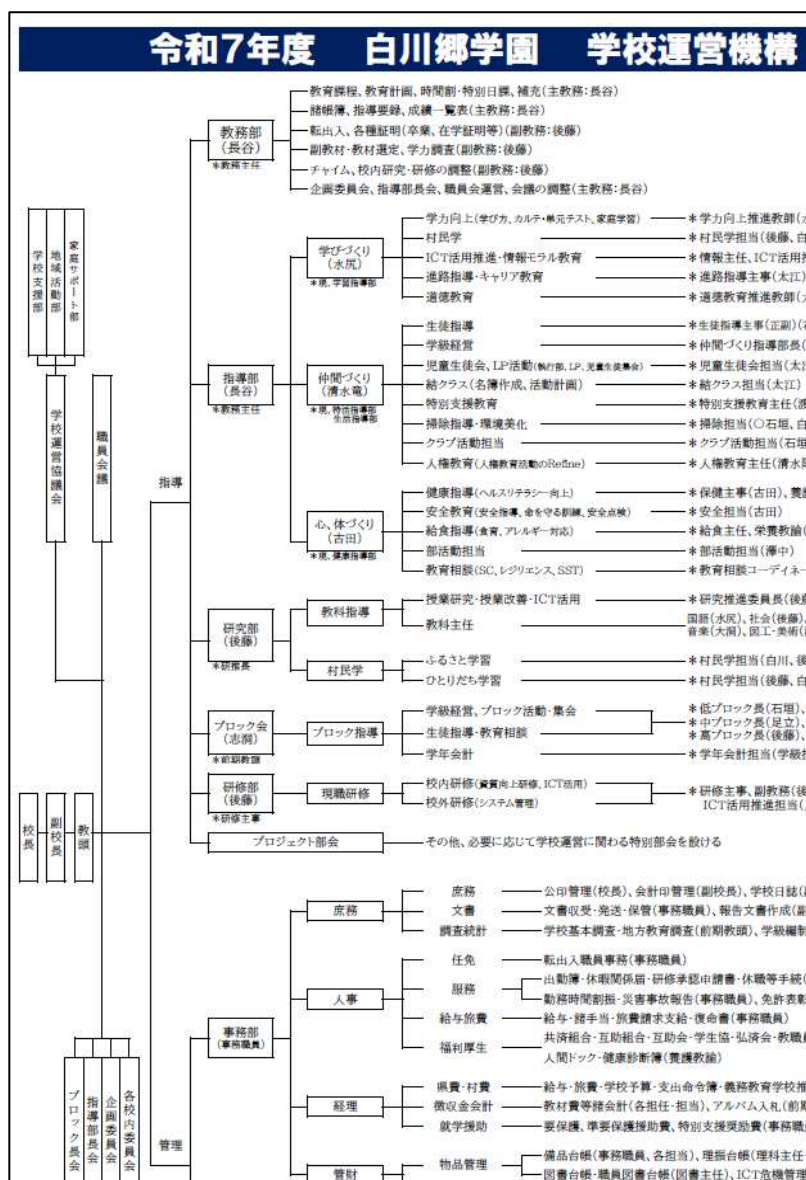
4 教職員組織

義務教育学校のメリットの一つである1校1組織を生かして、教職員一人ひとりの持ち味や将来へのキャリアを見据え、学園の教育目標の具現に向けた学校運営機構を作成している。組織づくりに際し、大きく「指導」と「管理」に分け、「指導」を「教務部」、「指導部」、「研究部」、「ブロック」、「研修部」とし、その下に各種教育を位置付ける。そうすることで、職員が学園組織の中で自分の役割を自覚し、学校運営への参画意識がもてるようにしている【図表16】。

加えて、本校は、初任者、直採常勤講師をはじめ、若い教職員集団である。やる気、活気にみなぎり、同じ目標に向かって取り組み、指導改善しようとする意欲が高い。こういった一人ひとりの教職員を生かさない手はない。そこで、「指導」の中に「プロジェクト部会」を設け、今、学園に必要なことを議論したり、

次年度に向けた教育課程について課題別にプロジェクトチームを立ち上げて議論したりできるようにしている。企画委員会やE4（エンジン4＝管理職の会）、E6（E4＋教務主任）、E8（E6＋事務職員）等の会議に議決事項を具申できるようにしている。

このように、組織の有機的なつながりを自覚したり、意見具申したりできるシステムを構築することで、教職員一人ひとりに学校運営の参画意識、当事者意識がもてるようにしている。



【図表16】令和7年度学校運営機構（一部）

5 教師の指導

①指導の構え

私たちが大切にしている「指導の構え」は、以下のとおりである。

- 全教職員「オール白川郷学園」で、全児童生徒を育てる
 - ・経年による経験やプライドから考えるのではなく、どの教職員からも学び合う
 - ・姿が変わるまでが指導、心が変わるまでが支援→「指導しきる」「関わりきる」
- 確かな事実を踏まえ、「目指す姿」、「指導の方途」を具体化する
 - ・子どもに徹してつく、見ようとして見る、心の声を聴く
 - ・顕微鏡でしか見えないようなよさでも認め、励まし、伸ばす
 - ・事実で子どもを語り、成長や変化を喜び合える職員集団
 - ・報告・連絡・相談、一人で抱え込まない
 - ・事実のないうわさ、声の大きな者の主張に指導を曲げない
- 子どもに失敗はつきものだという認識の下、子どもの挑戦に対する温かい眼差しと失敗に対する寛容さをもつ
- 前例にとらわれず、「今」、「この子」に軸足を置いて提案型の学校運営をめざす
～「どうしましょう？」から「こうします！」へ～
 - ・子どもはそうしたいと思っているのか？
 - ・子どもも、教師もワクワクする楽しさがあるのか？
 - ・よいと思ったことは実践、意味はあとから考えるというプラグマティズムの発想も
 - ・形骸化、形の継承から脱却し、その活動を始めたときに込めた理念こそ大切に
- プロの教育者としてのプライドと向上心をもつ
 - ・子ども、保護者、地域から信頼、尊敬、慕われる教職員
 - ・教師である前に子どもの最も身近な大人であれ
 - ・教育観、指導技術を常にアップデートし、教職員としての感性を磨く

教職員も子どもも、当事者意識をもって学校づくり、学校運営に主体的に参画するからこそ、教職員にとっても子どもにとっても「Well-Being」が向上する。まさに「働き甲斐改革」である。

教職員が働き甲斐をもってこそ、一枚岩の強靱な組織となり、子どもたちを育てることができ、学園の教育目標「ひとりだち～挑戦 創造 貢献～」の具現に向かうことができる。教職員も子どもも「ワクワク登校し、失敗も許される中で生き生き活動し、教職員も子どもも未来に向けて成長し合える学園」、これをめざす学園像としている。

②教職員の資質向上

本校は、一村一校で白川村の未来を支え、子どもたちの夢と未来を創る場所であると同時に、飛騨教育事務所の指定研修校である。9年間の系統性・発展性を踏まえた教科指導、村民学の学びなど、飛騨地区にその成果の一端を広めるミッションに加え、将来、学校の中核として学校・地区の教育を牽引できる教員を育てるミッションをもつ。しかしながら、毎年の変動者が多く、若手教職員が多い。自分の業務である、他人の業務で

あると業務や担当する児童生徒に境界を設けるのではなく、「チーム白川郷学園」のスタッフとして、学校運営や児童生徒の指導に対して当事者意識をもち、協働して遂行できる教職員の感性を磨いている。

教員の資質向上を目指して、計画的に教職員研修を位置付けている。職員研修は毎週月曜日の放課後に15分程度の短時間で設けている。学級経営、教科指導や学園で大切にしている教育活動の理念、コンプライアンスに関する研修など、研修主事が中心となって年間の適切な時期に位置付けている。講師は管理職、校務分掌による担当教諭だけでなく、警察官や医師など専門職の外部講師を積極的に活用して教職員の専門性を高める。加えて、長期休業期間には、議論したりするなど、じっくり学ぶ研修を位置付けている【図表17】。

これらに加え、校内研究を推進するための研究会を意図的・計画的に位置付けている。年度当初、研究推進委員会から、研究の方向性の提案を学ぶ「理論研」、年間3回程度の提案授業をもとにした「研究授業」がそれである。研究授業を一過性のものにしないよう、授業前には授業者の提案内容に基づいて各自の実践を見合う事前研修会、研究会で共通理解できたことについて各自各教科での実践を見合う事後研修会も行っている。

県教育委員会や教育事務所の研修会に加え、教職員は、県内、国内、自己研鑽の研修に出張する。日頃から職員室で、若手、ベテランの年齢や経験に関係なく子どもについて語り合い、授業について議論したりしている。職員の和を重んじる職員集団づくりが最も大切であり、学校運営に参画意識をもち、自由な発想で提案したり実践したりできる職場になるように努めている。私たち教職員が生き生きと仕事をする姿を見せることこそ、児童生徒の職業観を育てることになるだけでなく、次世代の教員、白川村の教員を生み出すことになると信じている。

R7年度白川郷学園 校内研修計画				
月	日・曜	時	研修内容	担当者
4月	1日(火)	第1回職員会	部活動の地域移行について	後期教頭
4月	1日(火)	第1回職員会	いじめ防止対策について	生徒指導
4月	3日(木)	第2回職員会	学校安全研修会	安全担当
4月	3日(木)	第1回職員会	白川郷学園の人権教育について	人権主任
4月	3日(木)	第2回職員会	学級開きと学級の規範作り	仲間づくり部長
4月	3日(木)	第2回職員会	特別支援教育(合理的配慮、インクルーシブ教育、通級)	特支コ
4月	3日(木)	第2回職員会	授業開きと学力向上について	学習指導部長
4月	3日(水)	13:00~	児童生徒理解研	教育相談
4月	7日(月)	13:00~13:45	食物アレルギー研修会	養護教諭・栄養教諭
4月	7日(月)	13:50~14:20	虐待対応訓練研修会	研修主事
4月	14日(月)	15:15~16:00	サバイバル学習の打ち合わせ研修(1から8年)	大豆村(トヨタ自動車学校)
4月	14日(月)	16:00~16:20	義務教育学校とは？白川郷学園の教育活動とは？	教務
4月	16日(水)	終礼	公金横領、窃盗等の根絶	E4
4月	21日(月)	15:10~15:40	村民学研修会(全体構想とねらい)	村民学担当
5月	19日(月)	15:15~16:00	全国学力テストの問題を解いてみよう	学力推進教師
5月	21日(水)	終礼	服務や職場環境への関心を高めよう	E4
5月	26日(月)	第3回職員会	豊かな心を育む道徳教育の研修会	道徳主任
5月	26日(月)	第3回職員会	公表会に向けて	研究主任
5月	26日(月)	第3回職員会	児童生徒会活動の在り方について(ねらい、具体的方途など)	児童生徒会担当
5月	28日(水)	終礼	引き渡し訓練・命を守る訓練(意義、詳細について)	安全担当
6月	4日(水)	終礼	研究推進委員会(研究構想・授業のねらいについて)	研究主任
6月	9日(月)	午後15:15~	救命救急講習	保健主事
7月	9日(水)	終礼	自己の欲求を満たすための不適切な行為の禁止①	E4
7月	23日(水)	午後	成績処理の仕方(Tcomposの使い方、所見の書き方)	教務
7月	28日(月)	午前	いじめ防止の研修会	橋本先生
7月	29日(火)	午後13:30	食物アレルギー研修	日赤医師・保健主事
7月	30日(水)	午前	不審者対応訓練研修会	研修主事
7月	30日(水)	午前	会計処理研修会	事務職員
8月	21日(木)	10:00~	ICT活用交流(ロイロノート実践交流など)	ICT担当
8月	22日(金)	第4回職員会	全国学力テストの結果分析と授業改善について	学力推進教師
8月	27日(水)	終礼	体罰の根絶と不適切な言動の排除	E4
9月	10日(水)	終礼	自己の欲求を満たすための不適切な行為の禁止②	E4
9月	26日(金)	15:15~16:00	村民学研修(具体的な実践交流)	村民学担当
10月	14日(月)	13:30~14:00	児童生徒主体の授業の創造について	学力推進教師
10月	15日(火)	13:30~14:00	危機管理マニュアルについて	安全担当

【図表17】校内研修計画(一部)